

アメリカ合衆國以下各國 義 荒木貞夫其他ニ聞ス
ル宣旨書

私、笠置良明ハ書ヒ左ノ如ク御話シ義シマス。

私ハ明治二十五年橋本縣足尾村ニ生レ、小學校、中
學校ヲ修ヘテ帝國大學ニ入り、大正八年同校ヲ卒業
義シマシタ。

卒業後同モテク滿洲興業所ニ入社シ丸ノ内ビルデイ
ング内ノ同社支店金融課主部ニ配屬サレマシタ。

大正八年ヨリ昭和四年ニ至ル間同部ニ勤務シテ居リ
マシタガ、私ノ働イテ居タ部ノ上官ハ大川周明博士
及長尾部長デアリマシタ。

大川博士ハ大正十二年頃「行地社」ヲ組織シソノ指
導ニ當ツタガ私モ一員トナリマシタ。私ハソノ主義
ノ或ル點ヲ意見ガ合ヘズ昭和三年ニ辭メマシタガ、
ソノ團體ハ私ガ昭和四年東京ヲ去ツタ時ニハ未ダ存
續シテ居リマシタ。

「行地社」ハ國家主義的團體ヲ日本ト東亞ニ於ケ
ル諸國間ノ友好關係ヲ改善スベク研究精進シ及日本
政府ヲ改革シ、又日本ガ東亞ノ指導者タルベク進明
ニアルト云フ觀念ヲ移植スル爲ニ組織セラレタノデ

アリ各員ハ日本ノ御後成ヲ導ス爲ニ万全ヲ盡サネベ
テラント主張シムノデアリマス。

大川博士ハコノ口邊ニ聞ツテ上記ノ主義ヲ主張スル
二、三ノ演説ヲシマシタ。ソシテ少ク共、一度ハ、
日本ハ印度ノ獨立ヲ援助スベキデアル旨通ベマシタ。
最も有力ナ全員ノ一人ニ鹿子木員信教授ガ居リマシ
タ。

私ガ昇級ヲ望ミ東京ニ去ル事ヲ願ツタノデ南滿洲鐵
道會社ニ歸クベク滿洲國大連ヘ送ラレマシタ。滿鐵
ハ滿洲鐵道所ノ主ナル株主ノ一ツデシタ。然シ乍ラ
大連ニ於ケル私ノ仕事ハ主トシテ滿鐵ノ人事ニ關係
シテ居マシタ即チ全滿鐵ノ預信、福利厚生恩給ニ關
スル事務デアリマシタ。

昭和五年五月私ハ主トシテ滿鐵社員ニヨリ約三十名
乃至四十名ノ日本人全員カラ成ル「友胞會」ト云フ
團體ヲ作りソノ會長トナリマシタ。タゞ一人ノ例外
ハ當時大連及奉天ニ事務所ヲ持ツテキタ日本人法律
家中野好通氏デアリマシタ。

昭和六年九月十八日即チ滿鐵事務變動後固モナク中
野好通ハ關東軍ノ政治部ニヨツテ、自治指導部ニ協
力スル様指示サレマシタ。ソノ指導部ハ遼寧省ノ獨
立ヲ説ク各縣團體ノ活動ヲ啓蒙シ並令シ、指示シ、

且後ニ、滿洲及熱河ノ全省ガ支那カラ獨立ヲ宣言スル様九月下旬ニ組織セラレタモノデ、コノ團體ノ主ナル目的ハカ、ル獨立運動ヲ發展サセ指示スル事ニ助力ヲ與ヘルニアツタ。團體ノ頭主ハ、支那人ノ西春汗デ外ニ支那人ガ若干居リマシタガ、全員ノ九割及ビ其モ責任アル地位ノ人々ハ皆日本人デシタ。

十月中旬頃中野好造氏ハ大連ニ於テ私ヲ訪レ奉天ヘ行ツテ自治政府案內局デ彼ト一齋ニ泊ク機動メマシタ。

私ハ吾ガ團體ノ全員ニ汚シ、ソノ中約二十名ハコノ仕事ヲ助ケル爲ニ奉天ヘ行ツタノデシタ。私ガ奉天ニ着イタ時ハ既に完全ナ組織ガ出來上テ居リ、私ハ奉天ノ本部ニ於ケル連絡主任ニ任命サレマシタ。我々ハ最初、熱河東ハ奉天省ノ十三處ハ十四縣ヲ受ケ持ツテ居リマシタガ私ハソノ中八縣ニ責任ヲ有シテ居マシタ。我々ハ各縣ニ活動スル二人或ハ三人ノ代表者ヲ持テ其ノ大部分ハ日本人デシタ私ハ彼等トノ連絡ヲ保チソノ努力ヲ指導シマシタ。私ハ縣長及政府役人達ニ他縣ニ於ケル狀況ヲ概説シ又若シ彼等ガ人民ノ利益ヲ増進スル爲ニ活動スル安定シタ然モ組織的政府ヲ持ツトシタラ、如何ニソノ國ガ進カニ良クナルカラ示シ、ソシテ又之ヲ實施スル爲ニハ彼等ガ支那カラ獨立ヲ求メル事が必要デアル旨語リマシ

々。初メハコノ獨立ノ操ルベキ形体ニ圖シ、一定シタ計畫ハナカツタノデアルガ、後ニナツテ頭主ニ統治者差シクハ皇帝ヲ尊ク各別箇ノ州ヲ形成スル事ニ決定シマシタ

私ガ借款ヲ借メル時私ノ仕事ニ資本ガ要リマシタノデ殊ニ自治指導部ニ備イテキタ人達ヲ住ハセル家ヲ貸リル爲ノ費用ガ要リマシタノデ當社ノ運営セル貸付協會カラ五百圓ヲ貸リマシタ。

昭和六年（一九三一年）ノ十一月ニ借款カラ約二萬圓ヲ貸ヒマシタ。此ノ金ハ私ガ借款ニ備イテキタ時ノ功勞ニ依ルモノデソノ中カラ私ハ借金ヲ返却致シマシタ。

自治指導部ニハ次ノ如キ八ツノ主ナル課又ハ部ガアリマシタ。

- 一、顧問 日支兩國人顧問ヲ特ツ
- 二、總務 全々日本人ニ依ツテ統一サル
- 三、指導
- 四、檢閲
- 五、連絡
- 六、宣傳
- 七、訓練及教育
- 八、財政

委員ハ約百二十名デアリ、中約二十名ハ友邦會カラ
強リハ滿洲青年聯盟カラノ者デシタ。會員ノ中約十
五名ガ支那人カ滿洲人デアリマシタ。

私ガ考ヘマスノニコノ國體ヲ動カス金ハ關東軍カラ
來タト思ヒマス。ト言フノハ我々ハ關東軍ト密接ナ
ル協力ヲ保テ我々ノ總ベテノ政治政策及活動ハ軍ノ
承諾ヲ受ケレバナラナカツタノデアリマス。板垣征
四郎大佐ハコノ部ヲ受持ツテキマシタ。石原完爾大
佐ハ戰術及策略ヲ經營シ、土肥原賢二大佐ハ奉天ニ
於ケル時務機關ヲ擔當シテキマシタ。ドノ支那人ガ
我々ノ計畫ヲ好意ヲ以テ迎ヘテ下レルカト云フ情報
ノ多クハ土肥原大佐ノ部カラ來タモノデアリマス。

昭和七年（一九三二年）一月ノ初メ自治指導部ハ聲
明ヲ發シ、北東諸省ガ滿洲及蒙古ニ新獨立國家ヲ建
テルベク大國民運動ヲ直チニ起ス必要ニ直面シテキ
ル事ヲ明示シタノデアル。

又、之等各省ノ人民ニ對シテ張學良元帥ヲ傾慕シ自
治指導部ニ參加シ、以テ人民ノ生活狀態ヲ改善スル
爲新政府ヲ設立スルノニ協力スルヤウ懇請シマシタ。

昭和七年（一九三二年）二月十八日北東諸省、即チ
奉天、黑龍江、吉林及承德ハ獨立宣言ヲ發表シ國民
黨ト南京政府トノ關係ヲ絶テ新政府ヲ樹立スベキ旨

布告シマシタ。

自治指導部ハ各省ニ於テ獨立運動ノ構成ニ重大ナル役割ヲ爲シ、ソノ結果トシテ滿洲國ト言フ新國家ガ樹立サレ、昭和七年（一九三二年）三月九日 僕ヘンリー氏ガ攝政トシテ立テラレタノデアリマス。

其ノ後同モナク自治指導部ハ廢セラレ私ハ市政局設立ヲ助力スル爲メ坂田修一ト共ニ長春ニ行キマシタ。市政局ハ新政府ノ一部デアリ内務大臣ノ指導下ニ置カレ新政府ノ文化、宗教、及ビ教育ノ發展ヲ擔當スルノデアツタ。

三、四ヶ月ノ後、該局ハ廢サレ政府ハ協和會ヲ通ジテ僞キ掛ケ、滿洲國民ノ間ニ國家主義的精神ヲ發展サセル役割ヲ成シテキタノデアリマス。

長春ヲ去ツタ後、私ハ大連ニ歸リソコニ殆ド一年居リマシタガ關東軍ガ私ノ行動ヲ好マス様ニナリマシタノデ大連ヲ無理ニ去ラサレ、東京ニ参リマシタ。ソコデ私ハ印刷所ヲ建テ「大亞細亞」ト云フ雜誌ヲ發行シマシタ。私ハ昭和二十年（一九四五年）五月迄コノ仕事ヲ續ケテ参リマシタガ只今ハ無職デアリマス。

笠 木 良 明 （印）

1854-7...

上記笠木良明ハ一九四六年（昭和廿一年）六月十日東京、自署参ビル内ニテ本官ノ面前ニテ宣誓ノ上本供述書ニ署名セリ。

アルヴァー・カーペンター

O O I, J. A. C. D

予、ジョン・A・カーティス、ハ茲ニ左ノ如ク證明ス。予ハ日英兩國語ニ通曉シ、且本日前記供述書ヲ上記笠木良明ニ日本語ニテ讀ミ聞カセタリ。之ヲ爲スニ當リ、予ハ前記供述書ノ内容ヲ英語ヨリ日本語ニ、忠實且正確ニ譯セリ。

右笠木良明ハ該供述書ノ内容ガ眞實ナル旨並該供述書ニ宣誓ノ上快ク署名スルニ旨述べタリ。

右笠木良明ハ予ノ面前ニテ正式ニ宣誓シ且該供述書ニ予ノ面前ニテ宣誓ノ上署名セリ。該宣誓ヲ爲シ且該供述書ニ署名スルニ就イテノ凡テノ手續ハ日本語ヨリ英語ニ、又英語ヨリ日本語ニ忠實且正確ニ譯セラレ右供述者ニヨリ充分理解且了解セラレタリ。

一九四六年（昭和廿一年）六月十日

日本國、東京ニ於テ

ジョン・A・カーティス